

# 主任委員による序

## 南部科学工業園区への深い感慨と二年間連続受賞に対する信頼

行政院国家科学委員会 主任委員 吳茂昆

2000年副主任委員に任命されて以来、南部科学工業園区(以下略して南科)のすばらしい運営黒字状況に大変深い印象を持ち、2004年8月中央研究院から再び国家科学委員会に戻り主任委員の任を受け、同年8月11日に南科管理局から南科の発展状況報告を受けたが、南科が南部の産業発展を率いるその使命と将来性に大いなる信頼を持ちました。

南科が区域内における企業・台南県とその政府協力団体、地方区民、及び管理局全員の努力により、僅か8年間で年間営業高8,300.8億円、就労者数延べ32,793人、誘致企業延べ157社という輝かしい成績を収めている。これは、新竹科学工業園区(以下略して竹科)が成立して14年目の発展規模に値する。これほどに速い発展は、新科学工業園区の模範となろう。私個人は南科は必ずや現有の発展を基礎に、更に多くの次世代産業技術等を引き込み躍進し続け、台南園区・高雄園区及び高雄バイオテクノロジー園区、周辺の産業・政府・学校研究機関などと手を結び、台湾南部の科学産業ラインを発展させ、台湾「グリーン・シリコン・アイランド」南部の中心として、世界と手を結び、新たな台湾の経済発展を作り上げていくであろう。

このほか、通信情報技術センターが高雄園区に設置され、今後電信産業関係における高い誘致効果が期待できる。通信情報産業が集積回路産業や映像ディスプレイ産業に続き、台湾の新たな産業形態となるよう期待される。高雄園区が漸次電信園区となるよう発展を遂げ、台湾の電信産業の中心となるよう一層努力をして参りたい。

南台湾のこの科学新興地帯において、南科管理局は優れた生産環境の構築だけでなく、自然環境保護にも力を注いでいる。我々は、園区内外の従業員と地域住民に、生産性の高い・自然に優しく・よりよい生活環境という三位一体の希望都市を与え、そのために努力を惜しまない。園区内における3つの遊水湖、2つの景観公園の完成記念に合わせて催された「南科健康ハイキング」イベントは、従業員と地域住民に霞客湖・道爺湖・迎曦湖・璞馨公園と西拉雅広場の美しさと優雅さを一度に味わせるものである。風光明媚な自然保護湖は南科管理局の管理の下、フィッシングをも楽しめるようになっており、園区が目指している科学技術生産と優雅な日常生活の両立を十分に表現している。

この8年、南科管理局は「企業工場設置時、園区内公共施設優先」をモットーに、標準工場を事務所として南科を今日までのような目覚ましい発展へと導いてきた。南科管理局は2005年1月に新たに完成した行政ビルに移り、今後も南科の駐在企業誘致活動、生活インフラ整備、園区基盤建設、産業学術協力、園区内安全保護等の各種サービス事業の提供を続けていく。行政ビルは11ヘクタールもある行政サービス区域内に建てられており、現在保安警備ビル・国家高速ネット電算機器センタービル・国賓飯店(Ambassador Hotel)によるビジネスホテルの他に、今後、金融センター・国際会議展示会センター等の施設をも整え、南科が世界貿易の中心となるようにし、更なる発展が遂げられるよう整備をし続けていく予定である。

経済発展とよりよい投資環境の整備は現政府の最優先政策事項である。特に「兩兆双星」(集積回路・カラー映像ディスプレイ・マルチメディア及びバイオテクノロジー産業)は政府が目指す「2008への挑戦：国家発展重点計画」の中で、積極的に推進している重点産業である。南科は現段階で広大な敷地と十分な基礎建設を有し、その上、オプトエレクトロニクス・集積回路とバイオテクノロジー産業が集中しているその優位性が既に形作られ、「兩兆双星」産業を推進する上で必ず重要な役割を担うであろう。

以上、南科が持つ国家建設に対する重要且つ不可欠な成果と貢献について述べてきた。最後に南科をここまで成長させ、精神・労力・汗水を貢献してきた全ての団体や地域住民達に、十二万分の敬意と謝意を表したいと存じます。

吳茂昆

